参加者氏名：酒井　通恭
卒業年：1983 年　卒業学部：経営学部

現地を訪問して想うこと

　このレポートを書いている今日の早朝、福島沖を震源とする大きな地震がありました。今回のツアー参加のため郡山に前泊をしていた12日の早朝にも宮城沖を震源とする地震に遭遇しました。東日本大震災から5年が経過してもなお東北の地は安住できないままです。
　遠く離れた地に住み、簡単にはボランティアに参加したりや旅行として訪ねたりが出来ない日常をおくっている身では、TVのニュースやドキュメンタリー番組や、あるいは震災を題材にした映画やドラマで断片的な情報を伝え聞き、想像することしか出来ませんでしたが、実際に訪問してみて本当にまだまだ真の復興は先の先と言わざるを得ない現実に深く考えさせられました。
　除染済みである常磐道をバスで走っているその車中での線量計の上昇、住人のいない浪江の商店街、津波で流され180度草しか生えていない請戸の集落・・・、阪神大震災の時の神戸や今回の震災でも地域によっては表面上かもしれないですが何とかそれなりに暮らせるように出来た5年という時間が、ここでは何の結果ももたらしていないこと、それは言うまでもなく原発事故が重なっているからだということのその罪深さを実感しました。
　原発を誘致し稼動させれば、雇用は生まれ経済は潤い地域は活性化する・・・それは確かにうそではないでしょう。しかしそれが人災でも天災でもひとたびこのような事態に陥れば、全てがなくなる、どうしようもなくなる、その深刻さを日本人全てが受け止めて行くべきだと考えます。特に原発の再稼動を進めようとしている地域の住民の方には、ぜひ福島に来て、この姿を感じてもらいたいと思わずにはいられませんでした。
　余談ですが、自宅に戻ってから今回の宿泊地「スパリゾートハワイアンズ」を題材にした映画「フラガール」を何年かぶりに見直しました。ホテルの景色を重ね合わせたいという軽い気持ちでしたが、見直してみて常磐炭鉱が縮小→閉鎖に向かう時代に福島の人たちが炭鉱遺産と知恵と情熱でたくましく復興を勝ち取るストーリーに再び触れ、今回もきっと福島の人々は見事に復興を勝ち取るだろうと信じて、エールを贈りたいと思います。
　機会が得られたらまた訪問し、次はもっと何か出来るようになっていたいと思います。